

「歴史に学ぶ会」 町並散歩

今回は、今川橋から日本橋まで、「^{きだいしょうらん}熙代勝覧」絵巻を手元に現在の町並を散策します。
会員の皆さんの参加をお待ちしております。

1. 日程 : 令和5年10月5日(木) JR 神田駅東口 10時 集合

2. コース: 今川橋から日本橋まで 「^{きだいしょうらん}熙代勝覧」絵巻を手元に現在の町並を散策します。

集合 10.00 JR神田駅東口 → ^{ほんしろがね}本銀通り → 日銀 → 常盤橋 → 三越 (昼食)11.30 →
道路原標 → 日本橋魚河岸跡 → 小津和紙(和紙博物館) 解散 14.00

「^{きだいしょうらん}熙代勝覧」絵巻とは、文化二年(一八〇五年)頃の江戸日本橋から今川橋までの大通り(約七百m)を東側から俯瞰、当時の江戸町人文化を克明に描いた作品(作者不明)で、原画はドイツのベルリン国立アジア美術館に所蔵されています。

3. 申し込み・申し込み締め切り・連絡先

NMC ホームページイベント申込みから、「歴史に学ぶ会」にチェック入れ、**昼食希望の方は、ご連絡事項の欄に「昼食希望」と記入し、申し込みください。**

なお、**参加申し込み締め切りは、昼食の予約確定のため、9月29日(金)までと致します。**

(連絡先) 歴史に学ぶ会世話人 細越博資

(Eメール): hirohosogoshi@jcom.home.ne.jp

(携帯) :090-4425-2616

以上

(参考) 吉田伸之著 都市 江戸に生きる シリーズ日本近世史④ 岩波新書より

「徳川家康が江戸に幕府を開くと、支配下においた全国の諸大名を動員して、江戸城と街区の大規模な改造と造成などに着手し、(1636 寛永 13) 江戸は一挙に巨大城下町となる。江戸の全体を堀のラインを惣構としてほぼ囲った点である。

江戸城(本丸・西の丸)を中心に、城内の尾張・紀伊・水戸の御三家を始め、内堀内外の諸大名屋敷地、足軽町、寺町、そして日本橋・神田・京橋などの町人地は、いずれも惣構内に取り込まれるように置かれた。惣構内の町人地に生まれた町は300町を超え、「^{こちょうさんびやくまち}古町三百町」呼ばれるこれらは日本橋を境に、「^{きたのかた}北之方」と「南之方」の二つの広域グループに区分された。

この二つは、江戸町方の町の連合体、すなわち「惣町」である。この中で、日本橋や中橋・京橋には職人町が集中し、江戸城への各種御用を勤めさせられ、ここには諸国からの物資荷揚げ・流通の一大センターとしての機能をもち、これに携わる問屋・商人達が分厚く密集した。

「古町三百町」にはそれぞれ名主がおかれた。町は家持ち町人が自治的に運営する共同体であり、幕府に対する多様な役負担や都市支配の末端を請負う主体であった。江戸には早くから伊勢・近江等より多様な商人が進出したと推定される。

寛永年間(1704~1715)の初めに、上方からの下り物を大量に運送する定期の海上船運が開始された。菱垣廻船の始まりである。17世紀初頭から魚市場が日本橋本小田原町界限で開設された。」